

## 新サービス 記者がチェック

「そんなものがなぜ……」と気になり、ノアール・プラン（東京・中央）が運営する「爪切り専門店」（横浜市）を訪ねた。東急東横線白楽駅から徒歩3分。店は駅前商店

# 理想の四角、指先保護

## 足の爪切り専門店

街の一角にある。外観は小さな理髪店のようだ。店に入ると店長の今村佳子さんが迎えてくれた。早速、60分間のヒキナークーコース（6480円、初回限定）を受けた。まずは足浴。約40℃のお湯が入ったおけに両足をつける。保温効果のある死海の塩が入っている。2分ほどすると全身が温かくなってくるのを感じる。その間に最初の疑問をぶつけてみた。なぜ足の爪切り？



ニッパーで爪を切っていく「爪切り屋 足業」の今村佳子店長（横浜市）

「高齢者の中には体が動じづらく、自分で足の爪を切れない人もいます」。今村さんによると、爪には指先を保護する大切な役割がある。伸ばし放したと足先をかばって切りにくい人の来店も多

## 巻き爪など相談も

がふやけたとで、掃除に移る。足を今村さんの膝の上に置くと、金風のへらで爪の脇に入っただけを落とす。いよいよ本番の爪切りだ。出てきたのは爪を切る専用のニッパー。爪を1つずつ丁寧に切っていく。足の爪はとうもろこしの粒のように四角い形が理想。「ちょっと深爪ですわ」。手の指を先端にあてたときに爪に触れるか触れないぐらいが適切だぞうだ。

## ここがポイント 高齢者の需要捉える

爪に手が届かない、巻き爪がずっと痛い、爪が厚くて切れない……。足業はもとも介護士の資格をもつ女性が、高齢者が爪切りに悩むのを聞いて事業化を思い立ったという。様々な悩みに的確に対応するには技術が必要で、高齢化が進む中で生まれた新たなニーズに応えたサービスといえる。

爪切りが終わると、機軸を使って角質を削りとっていき、最後にリンパマッサージをしてもうっ。店内には鏡の正しい巻き方などのポスターも。爪が厚く、若い時期に無理な力が加わり続けると、年を取って筋力が衰えたときに問題が出てくる場合もある。そう、前はかきかす、時には足元のケアも忘れずにいたい。

（新田裕一）